

政策コメンテーター報告(第2回)(意見照会期間:2016年10月31日~11月11日)

分野:	第4次産業革命・Society5.0、イノベーション
氏名:	岡田 羊祐 一橋大学大学院経済学研究科教授
質問事項	記述式回答
予測される経済・社会的な構造変化(2030年)	(300字以内で回答してください)
(1)① 2030年には、各分野において、どういった経済・社会的な構造変化が予測されるでしょうか。	インターネットなど情報通信技術(ICT)革新を駆動力とする新市場創出型のイノベーション競争がますます活発化する。また、ICTの発展によって、プラットフォームを通じて複数の市場が連結される「双方向市場」(two-sided market)のもとで、水平・垂直両方向での複雑に細分化された市場構造が生じる。さらに、シェアリング・エコノミーに見られるように、産業・市場の境界を破壊する第4次産業革命がグローバルに進行する。このような市場構造・企業組織の革新のもとで、市場機能を質的に改善するという次元での国際的制度間競争が活発化する。それと同時に、国際的に整合性ある市場競争ルールを構築する必要性が高まる。
目指す経済・社会の姿(2030年)	(200字以内で回答してください)
(1)② また、そうした構造変化を踏まえ、我が国が目指す経済・社会の姿はどうあるべきでしょうか。	イノベーションによって生産性が持続的に向上する経済を目指すべきである。そのためには、教育・研究への大幅な投資の拡大が必要である。しかし、科学・技術投資は集約化・重点化が望ましいわけではなく、資金制約の下で多様性を如何に確保するか、また、オープン・サイエンス・プライオリティ優先というアカデミア特有の行動規範と、ミッション・商用化・専有化志向というビジネスの行動規範を如何に調和させるかが課題となる。
今後取り組むべき構造改革(2016年~2030年)	(300字以内で回答してください)
(2) 上記(1)で挙げられた経済・社会の姿を実現するためには、足元から今後に向けてどのような構造改革に取り組むべきとお考えでしょうか。基本的な考え方や具体的な方法がございましたらご記載ください。	日本の潜在成長力を高めるためには、非製造業分野を中心に規制改革を徹底することによって、市場競争を通じた生産性の向上が実現する環境を整えることが必要である。特に、教育、医療・介護、労働、土地利用など、強い政府規制が残る分野の規制改革・市場改革は、依然として重要な政策課題と位置付けられるべきである。また、オープン・イノベーションが適切に機能するためには、①個々の研究者・技術者のインセンティブと整合性を保ちつつ、オープンなプラットフォームに知識が蓄積されること、および、②蓄積された知識ストックが、組織の境界を越えて、スムーズに転々流通する技術取引市場の仕組みが整備されること、の二点が必要である。